

第3回（令和5年度第3回）府中市生涯学習審議会会議録

1 日 時 令和5年7月24日（月）午前10時～正午

2 場 所 府中市生涯学習センター 3階研修室

3 出席者（敬称略）

(1) 委員13名

池田和彦委員、市村忠司委員、今関紘二委員、上野和憲委員、榎本成子委員、佐野洋委員、白信康委員、関川けい子委員、田頭隆徳委員、立石朝美委員、長畑誠委員、中村洋子委員、福田豊委員

※江崎章子委員、渡邊和子委員 欠席

(2) 職員9名

佐藤文化スポーツ部長、鈴木文化生涯学習課長、斎藤文化生涯学習課長補佐、武居生涯学習係長、竹川事務職員、高橋事務職員、山本事務職員
後藤文化・スポーツ施設老朽化対策担当副主幹、
奥文化・スポーツ施設老朽化対策担当主査

4 報告事項

(1) 配布資料の確認

ア 資料1 第2回府中市生涯学習審議会会議録（案）

イ 資料2 令和5年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第1回理事会資料（抜粋）

ウ 資料3 教育振興基本計画（概要版）

エ 資料4 第2回生涯学習審議会の意見まとめ

オ 資料5 第2回生涯学習審議会の意見まとめ2

(2) 前回会議録の確認

各委員に校正を依頼した前回会議録（案）について、市民に公開することが了承された。

(3) 令和5年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第1回理事会について

令和5年7月24日（火）に調布市で行われたこのことについて、当日出席した会長より内容等について報告があった。

5 審議事項

(1) 「これからの生涯学習を支える『公共』の役割について」

会長： 本日は会場が生涯学習センターであるという事で審議会前の時間を利用し希望者に施設見学を行った。本日の本題に入る前に確認したいのだが、この生涯学習センターにある設備で府中市内に他に無いものはどれか伺いたい。

事務局： 語学室、パソコン学習室、版画室、写真室、温水プールは生涯学習センターのみのものである。

会長： 地下にあるスタジオなどの音楽関係の部屋は他の施設にもあるのか。

事務局： スタジオ等については、府中の森芸術劇場や、府中の森芸術劇場分館に設置している。

会長： 本日の審議の参考になればと思い聞かせていただいた。もちろん、他の施設にもあるからいらいないというわけではなく需要があれば複数あっても良いと思う。

委員： 宿泊機能は他の施設にもあるのか。

事務局： 市内の公共施設で宿泊できるのは、生涯学習センターのみである。

会長： 多摩地域の29市町ある中で市として宿泊施設を所有しているのはどこか。分かればご提示いただきたい。

事務局： 正確ではないが、それぞれの市町内に宿泊施設を所有しているところは聞いた事は無いが、保養所や学校の林間学校などのための施設を所有している自治体はある。

会長： 市内に宿泊機能を持っている施設があるのは珍しいということかと思う。この話を参考の1つとして話を進めていきたいと思う。まず資料4をご覧ください。これは、前回みなさんからいただいた意見を「拠点として必要な機能だが、市内施設で広く行われているもの」、「生涯学習の拠点として特に必要なもの」、「それ以外の意見」に分類し、まとめたものである。これだけにこだわる必要は無いと考えているが、まずは真ん中の「生涯学習の拠点として特に必要なもの」について、深めていきたいと思う。そのためのものが資料5である。左側には前回出していたいただいた意見が書いてある。これは、付箋に書いたものであるため、具体的に考えるためには、この点に留意したほうがいだろうということがその隣に書かれている。このことを念頭においたうえで、拠点としてやるべきことや機能はなにか、それに呼応してハード面では何が必要かについて話していきたい。今回検討するのは、前回出た意見についてであるため、ここに出てきていないものももちろんあるが、それは後にしたい。まずはここに書いてあるものについて具体的に考えていき

たいと思う。皆さんには思いついた事をどんどん言っていただくことを想定している。上から順番に意見を出し合い、時間があれば戻りながら進めていきたい。

委員： 意見に番号を振った方がいいのではないか。

会長： 確かにその通りである。上から順に1番から23番までとしたい。それでは、5分から10分くらい時間を取り、この意見の中で皆さんが気になるものについて、ご検討をいただきたい。

時間になったので、1番から順に「拠点としてやるべきこと」、「必要な設備」等について、皆さまからの意見を伺っていきたい。

ではまず、1番と2番について、意見があればお願いしたい。戻ることでもできるので、どんどん行きたいと思う。

委員： 2番については、一般的な利用として使っている方と、講義を受けている方との区別が明確になっていないと使いづらい。

会長： それは必要な視点である。やるべきことの方に入ると思う。

委員： レッスン用レーンと自由遊泳レーンとはすでに分かれているのではないか。

委員： すでに分かれているのかもしれないが、知り合いが利用しに行った際に危ない思いをしたこともあるようである。レーンを年齢なども考慮して分かりやすく分ける必要があると良いのかなと思う。

会長： これが必要という話であるため、今すでにあるものでも構わない。1番では踊りとスポーツと書いてあるが、これを行うためには当然体育施設が必要になるかと思う。

委員： 踊りなどは文化センターでも行うことができる。文化センターではそれぞれの団体が活動している。そのため、生涯学習センターでは、講師を呼んで教室などを開いたらいいと思う。

委員： 踊りと言っても、その中に流派はたくさんある。生涯学習センターの拠点性を出すという点では、流派に関係なく、踊りのリーダー育成をするというのが考えられるのではないか。

委員： 現状では、各文化センターで自主グループが活動しているため、リーダー育成までしなくても、そのグループの活動を何らかの形で支援していけばいいのではないか。

委員： 自分が習っている立場から教える立場に上がるということが難

しいと思う。自分が先生に習っていても、それを近所の人に教えられるかというところがある。

会長： 裾野が広がっていくという事を考えるとそのような人が増えていくのは大事な点である。

委員： 何をやっていた人に習うかというのは、習う側からすると知りたい情報である。長くやっているからという理由でも受け入れられるのかというのは疑問である。生涯学習という事で市が背中を押してあげようとしているのであれば、そこに何らかのサポートをしても良いのではないか。

会長： リーダーや指導者育成機能の必要性の話であった。重要な点であると思う。

委員： 学びのサポーターとなる人材を育成するという事求められるのではないだろうか。

会長： その点については、この後生涯学習サポーターについても意見も出てくるためそこでお話しできればと思う。次に3番に移りたいと思う。

委員： 技術的失業というのは世の中の技術が進歩することによって生まれる失業を言う。例えば、自動運転技術が発展したら運転手という職業が無くなるというようなことである。どちらかという子ども向けの話で、20年、30年後にこの仕事はあるのかなど、未来を想像する場として、生涯学習センターが役割を持った方が良いのではないか。

委員： この意見を見ているとリスクリングのことを言っているようにも思う。

委員： 大人に対しての話ではリスクリングの視点もあるかと思う。

会長： こういう仕事が将来AIなどに取って代わられてしまうという事を知る必要もあるし、今その仕事をしている人からすれば、それを回避するためにはどのような技術を身に付けたらよいかを学ぶ必要があるという大人と子どもどちらにも対応する話であったかと思う。

委員： 子どもに関して言うと学校教育の中で、職業に関する授業などが行われているかと思う。生涯学習という立場で考えると、大人に焦点を当てる方が良いと思う。ただ、そのようなプログラムを提供するのはハローワークなどが再就職のための教育プログラムを出して

いるので、そういった所との関係も考えていく必要がある。

委員： ハローワークとの連携もあるし、文化センターなどとも連携しつつ、生涯学習センターだからこそ学べるようなことを行い、差別化をしていくこともできたらと思う。

委員： 他の自治体の図書館では、図書館内に起業のコーナーを作り、新しい起業家を育てるために知識の提供をしているところもある。

会長： 青年層あるいはそれより上の世代に対してリスクリングを進めるための取り組みを行うのが良いという話であったかと思う。

委員： 反対をするわけではないが、こういう職業が将来無くなるという事を市という立場で言って講座をするという事には疑問が残る。

会長： リスクリングと題することで今仕事をしている人でも新しいことを学ぼうとする人がいるかもしれない。ハローワークは少し敷居が高いため、ハローワークに行くほどではないけど不安を感じている人などには市が講座を行うことで安心感を与えることができるかもしれない。

委員： 技術的失業という言葉そのまま使ってしまうとセンシティブに感じる人もいるため、リスクリングや、起業など自分の選択肢を持つ場所として提供できたらいいと思う。

委員： 図書館などにそのコーナーを作りコンサルタントの人を招けばとてもいい空間ができるのではないか。これは実際に行っている図書館もある。

会長： リスクリングや企業に関する資料を用意するというのはどちらかというと施設の話に入るかと思う。では、次に4番に移りたい。

副会長： 広い施設のため、1階ロビーなどに災害用の備品や救助用品などを整備しておいても良いのではないかと思う。

会長： 生涯学習センターは避難所にはなっていないのか。

事務局： 二次避難所に指定されており、要配慮者などが避難に来ることが想定されている。

委員： 防災備品などを整備するのはいいが、防災教育が市内でも足りていないのではないかと感じている。住んでいる地域にいる時に地震や災害が来るとは限らない。防災の知識がある人がいない時に残った人が何をやるのかなど、防災の担い手が地域で不足している。そういったことを各地域のリーダーだけでなく末端のところまでカバーできるようなものが必要ではないか。防災拠点としてだけではなく防災教育について府中市民の防災教育というような講座を生涯学習センターで作り、それを起点に文化センターにも落としていくなど、消防署以外がこのような講座をやっても良いのではないか。

会長： これだけの敷地があるのであれば、いざとなつときに必要な技術

を学べるような、座学ではなく、より具体的なものを学べる場所があってもいいかと思う。

委員： 防災意識に関しては、地域差がある。多摩川沿いの人たちはこの前の大雨では氾濫はしなかったが、いつ起こるかと考えている。一方で高いところに住んでいる人はそこまでの意識はない。その差を考えていかなければならず、どこでまとめていくかという事が課題になるのではないか。

委員： 各地域で自主防災グループを形成しているので、その活動をどのように支援していくことができるかという視点でも考えることができる。

会長： では、次に5番の意見に移りたいと思う。5番は必要な情報が得られる場という事でここから少し抽象的なものが増えてくるが、基本的に生涯学習に関する事でご検討いただきたい。

委員： 生涯学習センターのウェブサイトの充実のイメージがある。誰が見ても生涯学習センターで何が学べるのかを可視化できる場所と言ったら、今でいうとウェブサイトになるかと思う。

会長： 確かにその通りである。ただ、それが生涯学習センターでやっている事の情報なのか、より広い生涯学習としての情報なのかは考えなくてならない点かと思う。今でも不十分であるかもしれないが、生涯学習センターでやっていることは公開されている。しかし、生涯学習をしたいと思っている人がどこに行ったらいいか、どう勉強したらいいかという事が生涯学習センターのウェブサイトを見たらわかるような、生涯学習全般に関するものが必要かもしれない。

委員： ウェブサイトにChatGPTを入れてみるのもよいかもしい。

委員： 明確にこれを学びたいと思っている人はいいが、漠然と何かをやりたいと思っている人にはChatGPTなどで、選択肢から選んでもらいながら、その人におすすめのものを提供できるような仕組みがあっても良いと思う。

委員： ウェブサイトも必要だが、今は中に入らないと何をやっているかわからないため、各施設で外側にデジタルサイネージ的にテロップで字を流したら近くを通った人も情報を得られるのではないか。

会長： 今の話は設備の方に入ると思う。次に6番に移りたい。

委員： 悩み相談のような電話窓口を設置する。

会長： 対面の場合は生涯学習相談会のようなものを実施するというのはあってもいいかもしれない。後はオンラインを使うことも考える。「出会える」という点が少し難しい。

委員： 人生経験や社会人経験豊富な人が相談に乗るようなことをイメージした。

会長： 7番にも関係するが、少なくとも相談できる場を作るというのは

必要である。あるいはカフェのような場も必要かもしれない。相談にSNSやAIを活用することも考えられる。次に8番に移る。この中では、国際人の定義が難しい。

委員： 私自身、海外在留期間が長い。私が英語を習ったのは文化センターである。文化センターに英語サークルの張り紙が貼ってありそれに入った。講師が辞めてしまい、誰を講師にするかとなった時に、近所に住んでいる方を説得して講師になってもらったことがある。そうすると活動時間以外でも講師と話をする機会が多くなり、会員募集すると10人くらいはすぐに集まった。そして、みんなと活動していく中で自然と英語も学ぶことができた。

会長： 今の話のポイントは、在住の外国人と出会えるということがあると思う。交流の場を作るという事も必要である。国際交流の団体は市内にもあると思うので、そことの連携もあると思うが、ここでのポイントとしては、市内に在住している外国人との交流の場を作ることにあるかと思う。

委員： 町内でも一定数の外国人が住むようになってきた。町内活動でもそういった人たちを巻き込んでやらなければ防災活動もできないなど、地域としてニーズが高まってきている。多文化共生を地域コミュニティでも行わなければいけないというレベルになってきている。

会長： この項目では、国際人のほかに老若男女と書いているが、ここは国際系の事に集中して話を出しておきたいと思う。次に9番に移る。クリエイティブというのが、少し広いのであえて絞るとすると、「創作」に関心がある人が集まる企画があっても良いのではないかと思う。

委員： 新しい発想を得る場というのもあると思う。

会長： どちらにせよ人が集まらないとできないものであるため、多様な人が集まる場が必要である。では10番に入る。

委員： 6番と10番と11番はとても近いものがあると思う。

会長： その通りである。学びたいと思っている人、どうしようと考えている人、教えることができる人がいて、その人たちをつないであげることができる機能が必要という事になる。11番は生涯学習サポーターの充実を付け加えたい。

委員： 例えば、登校拒否や不登校の子どもたちに対する学びの場の提供などはできるのではないか。

委員： フリースクールは現在作っているところかと思う。

会長： 生涯学習センターは現時点で気軽に若い世代の人たちが来るという場所にはなれていない。これは21番とも関わってくるがそれはまた後で考えたい。では次に12番に移る。12番で私が考えた事

としては、生涯学習に関する書籍や資料、映像が整備されている。さらにそれがいつでも見られるようになっていることというのがある。他に無ければ13番に入りたい。

委員： 個人的にこの項目は最も興味があるものである。悠学の会で講堂講座の受付を行っているが、講堂に入りきらずに苦情が来たことが何回かある、また、7割席が埋まっているという事も何回も見ている。テーマが決まっている訳ではなく、音楽、文学、宗教、歴史、けやき寿学園などがありそれぞれの講師がそれぞれの自分のテーマで行っている。留意する点で興味をどのように把握するのかと書いてあるが、これだけ多くの講座をやってきているため、どの内容であれば人が集まったかはわかるはずである。それをしっかりリストアップすれば市民がどの内容に興味があるかは分かる。あの規模の講堂はそうそう無いので、生涯学習センターの意味は間違いなくあると思う。

会長： 今のお話は近いところでいうと、18番と19番にもつながってくるかと思う。これだけの大きな施設があるのであれば、市民のニーズを過去の講座から把握し人が集まる大きな講座を実施しようという事になるかと思う。有名な方が来るとやはり席が埋まるというのはあるかもしれない。

委員： 7割、8割の席が埋まる講座というのは、生涯学習センターで行うにふさわしいテーマであると思う。

会長： 多くの人々が期待するような講座をやる必要があるだろうという点は押さえておきたいところである。次の14番は、10番とほとんど被っているため飛ばす。15番に移りたいと思う。来場経験とあるが、これは来場者数と読んでもいいのか、1人の人が何回も来るという理解でいいのか。

委員： どちらの解釈でも良いのではないか。講座に引っ張られると思うがしょっちゅう来る場所。リピーターが多いという事かと思う。

会長： リピーターが多いとなると違う視点が必要になってくるかもしれない。

委員： 拠点という事であれば、来場経験というよりは市民に親しまれている施設でなければいけない。その中の1つが来場経験になると考えている。例えば、講座には行かないけど、何か調べたりお話ししたりしに来るという事が考えられる。

委員： 建物についてなのか、コンテンツについてなのかでまた変わってくるかと思う。

委員： 留意する点の「市民カード」とは何を指すのか。

副会長： 「経験」と書いてあったので、活動の特定を通じてその人の来館経験を把握するという事で書かせていただいた。

委員： 貯まったら何かもらえるような、生涯学習センターのポイント制などがあっても良いのではないか。

会長： 去年の意見では、入り口が暗くて入りづらいという声があった。明るくするのは、電気料の関係もあるので難しいかもしれない。

委員： 屋上にソーラーパネルを設置すればある程度解決できるのではないか。

会長： 入口が暗くて入りづらいというのは親しまれるための施設としてあるかと思うので、書いておきたい。15番はとりあえずここまでにして、16番に移りたい。

委員： 先ほど、たくさんの方が集まる講座があるといったが、その逆もある。大きな会場に数人しか集まらない。普通の事業であれば、採算が合わないので、無くすところを普通に行っている。どうすれば人が増えるかという事を考えたら、取捨選択をするはずだが、それが無い。あのような事業は収益を考えてやっているのか、考えずにやっているのかは分からない。建物は市が作るが、事業は運営する人たちのアイデアでやっていくものだと思う。収益というのは、活性化のモチベーションにもなる重要なポイントだが、その点があまり考えられていないように思う。

委員： おっしゃりたいことはわかるが、民間企業が運営している施設とは違うため、内容によって必要なものもある。そのため、あまり人が集まらないからと言って、直ちにその事業を切るとするのは目的とは少しずれてしまうのではないか。

委員： 受益者負担の原則から考えると、例えば、ある施設の稼働率は高いが、使っている人は限られている場合。採算がとれていればいいが、取れてない場合は使っていない人が使っている人の分も負担していることになる。という事を考えると採算というのは重要な点ではないかと考えている。

委員： その考えを貫いてしまうと、施設の使命として大切なところが抜けてしまうのではないかと思う。

会長： 先ほどの話で言うと、例えば、防災に関しては市としてもやらなくてはいけない事である。そして、その防災の講座をやった時に集まりが悪かった。となったときに集まりが悪いからやめる。とは言えないという事である。ただ、少なくとも良いかという決してそうではなくて、参加者を増やす努力をしなくてははいけない。採算をどこの点で見るかは市の施設ならではのものがあと思うが、その線が無いわけではない。

委員： 儲かっているところが儲かっていないところを支えるという支え合いの心も必要かもしれない。

会長： 収益という事に関してはセンシティブティに考える必要があるが

どこに線を引くかは難しいというところだとどめておきたい。次の17番について、最先端をどう定義するか。生涯学習センターに無いとできないみたいなものや、多くの人が、来てくれるような講座をやるのは大事。そして、最先端ゆえに集まる人は少ないけど、今後の社会のためには必要なもののような取り組みもあるかもしれない。

委員： このような意見を見るとデジタルの話がイメージとして出てくる。地域や社会の持続可能性の維持のためにもデジタルテクノロジーは必要不可欠である。今生活の利便性を高めるような工夫は何が出てきているかという事を学ばないとついていけなくなってしまうという事を皆さんに伝える場があってもいいのではないかと思う。

会長： 今後社会が変わっていくのは確かなことであるため、その変わっていく部分を多くの人に分かっていただくというのは良いことであると思う。

副会長： 枠組みとして整備することも考えられると思う。20年、30年先の話を今はしているため、具体的に何をするかはその時代によってあると思うが、生涯学習センターの機能として、市が直営で管理するところがあっても良いと思う。アンテナ的な講座をその枠組み内で行うこともできるのではないか。

会長： その内容を常に提供できるような体制を作るという事でも良いかと思う。未来の先を読むような講座をしなければ、若い世代もやって来ないかもしれない。では、次の18番に行きたいと思う。

委員： 大規模な企画ができることが16番の収益の話につながることもあるかと思う。生涯学習センターだから生涯学習センターの中で行わなければいけないという事でもない。そのため、生涯学習センターの企画だけど、ルミエール府中市民会館や文化センター、府中の森芸術劇場で行うことも考えて良いのではないか。

会長： 確かにその視点は面白いので、意見として書いておきたい。次の19番が今の意見と対になるもので施設としての集客力の話になっているが、これは、今までも意見が出てきていたし、今ある以上のものを作るという意見が無いようであれば省略し、20番に行きたい。これは、どちらかというと文化センターの方が担えるのだが、あえてこっち側に持ってきたということである。

委員： 生涯学習センターのほうが、施設として大きく、設備としても色々あって、選択肢が多いと思っている。高校で探究という科目が始まった。学校の科目ではないものをテーマに調べるというようなものであるが、そのテーマ選びで学校も生徒も困惑しているらしい。そこで、生涯学習センターが高校と連携し、探究のテーマを生涯学習センターで見つけるという事も考えられる

会長： 連携という点では大事な視点であるかと思う。次の21番に入りたい。私のイメージでは、別々で学ぶのはすでにやっているのに、高齢者から子どもまでが一緒に学ぶことのできる場があればいいと思っている。今日施設の見学をした中で、私が足りないと感じたのはワークショップルームである。普通の教室だが、机とかは最初からは置いてなくて広々と自由にレイアウトして使えるという場所が意外と人が集まりやすいのではないかと思う。次に22番は特に難しいものである、課題として残しておいてもいいかもしれない。最後の23番に入りたいと思う。生活支援というと福祉の分野の話になってしまう。生涯学習センターがそこに踏み込むことができるかは分からない部分があるため、ここはペンディングにしておきたい。また、教育ボランティアについては、具体的なものが見えてこないが、どのようなこと事が言えるだろうか。

委員： 先ほど話に出ていたフリースクールの事になるのではないだろうか。

委員： 文部科学省が言っているコミュニティ・スクールの事もあるのではないか。

会長： 確かにそうかもしれないが、学校単位で出来ることであれば、生涯学習センターで行う必要は無いと思う。生涯学習センターができることとなるとやはり、不登校の子供たちへの場の提供になるのかなと思う。

最後まで意見が出た。出た意見をまとめたものは皆さんにもお示ししたいと思う。資料3をご覧ください。これは、事前に送付したもので、今年度の6月に文部科学省が策定した教育振興基本計画の概要版である。これは、主に学校教育の話であるが、社会教育の話も出てきている。なぜこれを事前送付したかという、今日の話の中にもいくつか出てきたが、若者の話や、デジタルの話などが入っている。今回は、今回出た意見をまとめて、それについて話すのだが、今回はそれに加えて、日本社会がどういう状況にあって何が必要なのかという広い視点でもう一度で考えていただき、府中市の生涯学習センターに必要なことと、府中市の生涯学習の拠点として必要なことについて、今回出た意見に付け足しをしていきたいと思う。それを考えていただく参考になればと思い、配布させていただいている。そして、その出た意見を集約していき中間答申に持っていきたいと思う。

委員： 前回の審議会で生涯学習センターがなぜこの場所になったかについて説明するとのことだったかと思うがどうか。

事務局： 昔の事であるため資料が充分に残っていないが、昭和56年の市議会で、府中基地跡地に関しての整備方針が報告されており、その

中に社会教育施設として、出てきている。その方針に沿って整備がされたと考える。

会長： つまり府中基地跡地の活用で今の場所になったという事であるかと思う。他に無ければ、これで第3回府中市生涯学習審議会を終了する。

6 その他

次回の審議会の開催時期について、令和5年8月31日（木）の午後3時から府中駅北第2庁舎3階会議室にて開催することで、了承を得た。